

○国立大学法人金沢大学政府調達協定実施事務取扱要領

(平成16年4月1日規程第97号)
改正

(趣旨)

第1条 この要領は、2012年3月30日ジュネーブで作成された政府調達に関する協定を改正する議定書によって改正された1994年4月15日マラケシュで作成された政府調達に関する協定(以下「改正協定」という。)その他の国際約束を実施するため、国立大学法人金沢大学(以下「本学」という。)の締結する契約のうち国際約束の適用を受けるものに関する事務の取扱いに関し、関係法令等に定めるものの外、必要な事項を定める。

(定義)

第2条 この要領において、次の各号に掲げる用語の意義は、当該各号に定めるところによる。

- (1) 物品等 動産(現金及び有価証券を除く。)及び著作権法(昭和45年法律第48号)第2条第1項第10号の2に規定するプログラムをいう。
- (2) 特定役務 改正協定の附属書I日本国の付表5に掲げるサービス及び同附属書I日本国の付表6に掲げる建設サービス(本要領において「建設工事」という。)に係る役務をいう。
- (3) 調達契約 物品等又は特定役務の調達のため締結される契約(当該物品等又は当該特定役務以外の物品等又は役務の調達が付随するものを含み、民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律(平成11年法律第117号)第2条第2項に規定する特定事業(建設工事を除く。)にあっては、民間資金等の活用による公共施設等の整備等の促進に関する法律の一部を改正する法律(平成23年法律第57号)による改正前の同項に規定する特定事業を実施するため締結される契約に限る。)をいう。
- (4) 一連の調達契約 特定の需要に係る一物品等若しくは特定役務又は同一の種類以上の物品等若しくは特定役務の調達のため締結される二以上の調達契約をいう。

(適用範囲)

第3条 この要領は、次に掲げる調達契約のうち、予定価格(物品等の借入に係る調達契約又は一定期間継続して提供を受ける特定役務の調達契約にあっては、借入期間又は提供を受ける期間の定めが12月以下の場合は当該期間における予定賃借料の総額又は当該役務の予定価格の総額、その期間の定めが12月を超える場合は当該期間における予定賃借料の総額又は特定役務の予定価格の総額に見積残存価額を加えた額とし、その他の場合は1月当たりの予定賃借料又は1月当たりの特定役務の予定価格に48を乗じて得た額とする。)が国の物品等又は特定役務の調達手続の特例を定める政令(昭和55年政令第300号)第3条第1項に規定する財務大臣の定める額以上であるもの(以下「特定調達契約」という。)に関する事務について適用する。

- (1) 物品等の調達契約
- (2) 特定役務のうち建築工事の調達契約
- (3) 特定役務のうち建築のためのサービス、エンジニアリング・サービスその

他の技術的サービスの調達契約

(4) 特定役務のうち前2号以外の調達契約

- 2 前項の予定価格は、調達契約に関し単価についてその予定価格が定められている場合にあつては当該予定価格に当該調達契約により調達をすべき数量を乗じた額とし、一連の調達契約が締結される場合にあつては当該一連の調達契約により調達すべき物品等又は特定役務の予定価格の合計額とする。

(参加のための条件)

第4条 本学の学長又は特定調達契約の実施について学長の委任を受けた役員若しくは職員(以下「学長等」という。)は、調達の要件を満たすために不可欠な場合には、関連する過去の経験を要求することができるが、関連する過去の経験を自国の領域において取得していることを条件として課してはならない。

(競争参加者の資格等)

第5条 特定調達契約に係る競争に加わろうとする者は、国立大学法人金沢大学会計細則(以下「会計細則」という。)第32条第2項に定める資格を有している者とする。

(一般競争の公告)

第6条 学長等は、特定調達契約につき入札の方法により一般競争に付そうとするときは、その入札の期日の前日から起算して少なくとも40日前(一連の調達契約に関し、その最初の契約に係る入札の公告において、その後の契約に係る入札の公告において24日以上40日未満の入札期間を定めることを示す場合には、当該その後の契約については、その定めた期日まで)に官報により公告をしなければならない。ただし、次の各号に掲げる場合には、その期間を当該各号に規定する日数まで短縮することができる。

(1) 特定調達契約に係る次に掲げる事項について、特定調達契約につきこの項の規定による公告(以下「一般競争公告」という。)を行う日の前日から起算して1年前の日から40日前の日までの間に官報によりあらかじめ公示している場合 10日

ア 調達の内容

イ 入札期日として予定する日付

ウ 調達に関心を有する者は、契約を担当する職員に対して当該調達に係る入札に参加しようとする意思がある旨の表明をすべきこと。

エ 第12条に規定する文書を交付する場所

オ 次条各号に掲げる事項(この号の規定による公示の際に示すことができないものを除く。)

(2) 特定調達契約の締結までに急を要する場合 10日

(3) 次に掲げる場合のいずれかに該当する場合 40日から、5日にその該当する場合の数に乗じて得た日数を減じた日数

ア 一般競争公告を官報の発行に関する法律(令和五年法律第八十五号)第五条の規定により発行される官報により行う場合

イ 第12条に規定する文書の交付(一般競争公告を行った日から行われる交付に限る。)を電子情報処理組織を使用して行う場合

ウ 入札書の受領を電子情報処理組織を使用して行う場合

(4) 特定調達契約により調達される物品等又は特定役務が、政府以外の者によ

り通常行われる取引（物品等の取引にあつては、売買取引に限る。）の対象となる物品等又は特定役務（当該取引の際に それらの仕様の変更又は追加をすることができないものに限る。）である場合 次に掲げる場合の区分に応じ、それぞれ次に掲げる日数

ア 前号ア及びイに掲げる場合に該当する場合（イに掲げる場合を除く。） 1
3日

イ 前号アからウまでに掲げる場合の全てに該当する場合 10日

2 学長等は、入札者若しくは落札者がいない場合又は落札者が契約を結ばない場合において、さらに入札に付そうとするときは、前項に定める入札公告の期間を短縮することはできないものとする。

（一般競争公告をする事項）

第7条 前条に定める一般競争公告は次に掲げる事項について行うものとする。

(1) 競争入札に付する事項

(2) 競争に参加する者に必要な資格に関する事項

(3) 契約条項を示す場所

(4) 競争執行の場所及び日時

(5) 入札保証金に関する事項

(6) 一連の調達契約にあつては、当該一連の調達契約のうちの一の契約による調達後において調達が予定されている物品等又は特定役務の名称、数量及びその入札の一般競争公告の予定時期並びに当該一連の調達契約のうち最初の契約に係る入札の一般競争公告の日付

(7) 会計細則第32条第2項に定める競争参加資格の申請の時期及び場所

(8) 第12条に定める文書の交付に関する事項

(9) 落札者の決定の方法

2 学長等は、前項の公告において、当該公告に示した競争に参加する者に必要な資格のない者のした入札及び入札に関する条件に違反した入札は無効とする旨を明らかにしなければならない。

3 学長等は、第1項の公告において、当該学長等の氏名及びその所属する部局の名称並びに契約の手続きにおいて使用する言語を明らかにするほか、次に掲げる事項を、英語、フランス語又はスペイン語により、掲載するものとする。

(1) 調達をする物品等又は特定役務の名称及び数量

(2) 入札期日又は会計細則第32条第2項に定める競争参加資格の申請の時期

(3) 学長等の名称及びその所属する部局の名称

（指名競争の公示等）

第8条 学長等は、特定調達契約につき指名競争に付そうとするときは、第6条第1項の定める例により、公示をしなければならない。この場合において、第6条の見出し中「一般競争の公告」とあるのは「指名競争の公示」と、同条第1項中「公告しなければならない」とあるのは「公示しなければならない」と、同項第1号中「公告（以下「一般競争公告」）」とあるのは「公示（以下「指名競争公示」）」と、同1項第3号中「一般競争公告」とあるのは「指名競争公示」と、前条の見出し及び同条各号列記以外の部分中「一般競争公告」とあるのは「指名競争公示」と、同条第1項各号列記以外の部分中「事項」とあるのは「事項及び会計細則第35条の規定に定める基準に基づく指名競争において指名されるために必

要な要件」と、同条第1項第6号中「一般競争公告」とあるのは「指名競争公示」と、同条第1項第7号及び第3項第2号中「会計細則第32条第2項」とあるのは「会計細則第41条において準用する会計細則第32条第2項」と、同条第2項から第3項中「公告」とあるのは「公示」と読み替えるものとする。

2 会計細則第35条の規定に定める基準に基づき指名される競争参加者に対しては、前条第1項第1号及び第3号から第5号までに掲げる事項を第1項の定める公示の日において当該競争参加者に通知するものとする。

3 前項の場合においては、前項により通知しなければならない事項のほか、次に掲げる事項を通知しなければならない。

(1) 一連の調達契約にあっては、前条第1項第6号に掲げる事項

(2) 契約の手続きにおいて使用する言語

(公告又は公示に係る一般競争入札又は指名競争に参加しようとする者の取扱い)

第9条 学長等は、特定調達契約につき一般競争に付そうとする場合に一般競争公告をし、又は指名競争に付そうとする場合に指名競争公示をした後、当該一般競争公告又は指名競争公示に係る一般競争又は指名競争に参加しようとする者から会計細則第32条第2項に定める資格について審査の申し出があったときは、速やかに申請を受け付ける機関名を通知しなければならない。

2 学長等は、特定調達に係る指名競争の場合においては、会計細則第35条各号に定める資格を有すると認められる者を指名するとともに、前条第2項に定める事項及び第3項各号に掲げる事項をその指名する者に通知しなければならない。

3 学長等は、特定調達契約につき一般競争又は指名競争に係る資格審査の申請を行った者から入札書が提出された場合においては、その者が開札の時に一般競争の場合にあっては第7条第1項第2号に定める競争に参加する者に必要な資格を有することが認められることを、指名競争の場合にあっては前項の定めに基づき指名されていることを条件として、提出された入札書を受理するものとする。

4 学長等は、前項に基づき入札書を受理したときは、資格審査を受け付けた機関に対して開札の日時まで審査を終了することができるか確認の上、審査を終了することができないおそれがあると認められるときは、あらかじめ、その旨を前項に定める入札書を提出した者に通知しなければならない。

5 第1項に定める通知を行ったときは、あらかじめ、通知の相手方が資格を取得しているか確認した上で、第2項に定める指名を行わなければならない。

(郵便等による入札)

第10条 学長等は、特定調達契約につき郵便又は民間事業者による信書の速達に関する法律(平成14年法律第99号)第2条第6項に規定する一般信書便事業者若しくは同条第9項に規定する特定信書便事業者による同条第2項に規定する信書便による入札を禁止してはならない。

(技術仕様)

第11条 学長等が、環境に関するラベルのために定める環境を害しない技術仕様又は欧州連合、グレートブリテン及び北アイルランド連合王国若しくは日本国において効力を有する関係法令に定める環境を害しない技術仕様を適用する場合には、これらの技術仕様に関し、次のことを確保しなければならない。

(1) 契約の対象である物品又はサービスの特性を定めるために適当なものであ

ること。

(2) 客観的に検証可能かつ無差別な基準に基づくものであること。

- 2 学長等は、調達の実施に関する環境上の条件を定めることができる。ただし、当該環境上の条件が、国際約束に定める規則と両立しており、かつ、調達計画の公示において又は調達計画の公示若しくは入札説明書として使用される他の公示において示されている場合に限る。

(入札説明書の交付)

第12条 学長等は、特定調達契約につき一般競争又は指名競争に付そうとするときは、これらの競争に参加しようとする者に対し、その者の申請により、次に掲げる事項を記載した入札説明書を交付するものとする。

- (1) 第7条又は第8条第2項に定める公告又は公示をするものとされている事項
(第7条第1項第8号に掲げる事項を除く。)
- (2) 調達をする物品等又は特定役務の仕様その他の明細
- (3) 開札に立ち会う者に関する事項
- (4) 学長等の氏名並びにその所属する部局の名称及び所在地
- (5) 契約の手続きにおいて使用する言語
- (6) 契約の手続きにおいて電子情報処理組織を用いる場合には、当該電子情報処理組織に関する事項
- (7) その他必要な事項

(落札)

第13条 学長等は、他の入札書に記載された価格よりも異常に低い価格を記載した入札書を受領した場合には、当該価格が補助金の交付を考慮に入れたものであるかどうかについて当該入札書を提出した供給者に確認を求めることができる。

(随意契約によることができる場合)

第14条 特定調達契約については、次の各号のいずれかに該当する場合に限り、随意契約によることができる。

- (1) 一般競争又は指名競争に応ずる入札がないとき又は行われた入札がなれ合いによるとき若しくは再度の入札を行っても落札者がいないとき。ただし、当初の入札の要件が契約の締結に当たって実質的に修正されないこと。
- (2) 落札者が契約を結ばない場合で、落札金額の制限の範囲内で契約をするとき。ただし、当初の入札の要件が契約の締結に当たって実質的に修正されないこと。
- (3) 他の物品等をもって代替させることができない芸術品又は特許権等の排他的権利に係る物品等若しくは特定役務の調達をする場合において、当該調達の相手方が特定されているとき。
- (4) 既に調達した物品等(以下この号において「既調達物品等」という。)の交換部品その他の既調達物品等に接続して使用する物品等の調達をする場合であって、既調達物品等の調達の相手方以外の者から調達をしたときに既調達物品等の使用に著しい支障を生ずるおそれがあるとき。
- (5) 本学の委託に基づく研究開発の結果製造された試作品等の調達をするとき。
- (6) 既に契約を締結した建設工事(以下この号において「既契約工事」という。)についてその施工上予見し難い事由が生じたことにより既契約工事を完

成するために施工しなければならなくなった追加の建設工事(以下この号において「追加工事」という。)で当該追加工事の契約に係る予定価格に相当する金額(この号に掲げる場合に該当し、かつ、随意契約の方法により契約を締結した既契約工事に係る追加工事がある場合には、当該追加工事の契約金額(当該追加工事が二以上ある場合には、それぞれの契約金額を合算した金額)を加えた額とする。)が既契約工事の契約金額の100分の50以下であるものの調達をする場合であって、既契約工事の調達の相手方以外の者から調達した場合に既契約工事の完成を確保する上で著しい支障を生ずるおそれがあるとき。

(7) 計画的に実施される施設の整備のために契約された建設工事(以下この号において「既契約工事」という。)に接続して当該施設の整備のために施工される同種の建設工事(以下この号において「同種工事」という。)の調達をする場合、又はこの号に掲げる場合に該当し、かつ、随意契約の方法により契約が締結された同種工事に接続して新たな同種工事の調達をする場合であって、既契約工事の調達の相手方以外の者から調達をすることが既契約工事の調達の相手方から調達をする場合に比して著しく不利と認められるとき。ただし、既契約工事の調達契約を第5条から前条までの定めに基づき締結されたものであり、かつ、既契約工事の入札に係る第6条に定める一般競争公告又は第8条に定める指名競争公示においてこの号の定めに基づき同種工事の調達を行う場合があることが明らかにされている場合に限る。

(8) 緊急の必要により競争に付すことができないとき。

(9) 事業協同組合、事業協同小組合若しくは協同組合連合会又は商工組合若しくは商工組合連合会の保護育成のためこれらの者から直接に物品等を買入れるとき。

(10) 慈善のため設立した救済施設から直接に物品等を買入れ若しくは借入れ又は慈善のため設立した救済施設から役務の提供を受けるとき(物品等の買入れ又は借入れの場合にあつては、当該物品等を慈善のため設立した救済施設が生産する場合に限る。)

(落札者の決定に関する通知等)

第15条 学長等は、特定調達契約につき一般競争又は指名競争に付した場合において、落札者を決定したときは、その翌日から起算して7日以内に、落札者を決定したこと、落札者の氏名及び住所並びに落札金額を、落札者とされなかった入札者に書面により通知するものとする。この場合において、落札者とされなかった入札者からの請求があるときは、当該請求を行った入札者が落札者とされなかった理由(当該請求を行った入札者の入札が無効とされた場合にあつては、無効とされた理由)を、当該請求を行った入札者に通知するものとする。

2 学長等は、特定調達契約につき一般競争又は指名競争により落札者を決定したとき、又は随意契約の相手方を決定したときは、その翌日から起算して72日以内に、次に掲げる事項を官報により公示しなければならない。

- (1) 落札又は随意契約に係る物品等又は特定役務の名称及び数量
- (2) 学長等の氏名並びにその所属する部局の名称及び所在地
- (3) 落札者又は随意契約の相手方を決定した日
- (4) 落札者又は随意契約の相手方の氏名及び住所
- (5) 落札金額又は随意契約に係る契約金額

- (6) 契約の相手方を決定した手続
 - (7) 一般競争又は指名競争によることとした場合には、第6条に定める一般競争公告又は第8条に定める指名競争公示を行った日
 - (8) 随意契約による場合にはその理由
 - (9) その他必要な事項
- (一般競争又は指名競争に関する記録)

第16条 学長等は、特定調達契約につき一般競争又は指名競争に付した場合において、落札者を決定したときは、次に掲げる事項について、記録(契約の手続きにおいて電子的手段を用いた場合には、その電磁的記録を含む。)を作成し、落札の日から少なくとも3年間保管するものとする。

- (1) 入札者及び開札に立ち会った者の氏名
- (2) 入札者の申込みに係る価格
- (3) 落札者の氏名、落札金額及び落札者の決定の理由
- (4) 無効とされた入札がある場合には、当該入札の内容及び無効とされた理由
- (5) 第9条第4項の定めにより通知した場合には、その通知に関する事項
- (6) その他必要な事項

(随意契約に関する記録)

第17条 学長等は、特定調達契約につき随意契約によった場合には、当該随意契約の内容及び随意契約によることとした理由について、記録を作成し、保管するものとする。

(苦情の処理)

第18条 学長等は、特定調達契約につき落札者とされなかった入札者からの苦情その他特定調達契約に係る苦情の処理に当たる職員を指定するものとする。

2 前項に定める職員は、次に掲げる職員とする。

- (1) 財務部財務管理課長
- (2) 施設部施設企画課長
- (3) 病院部経営管理課長

(特定調達契約に関する統計)

第19条 学長は、文部科学大臣の依頼により特定調達契約に関する統計を作成し、文部科学大臣に送付するものとする。

附 則

- 1 この要領は、平成16年4月1日から施行する。
- 2 この要領は、この要領の施行の日前において行われた公告その他の契約の申込みの誘引に係る契約で同日以降に締結されるものに関する事務については、適用しない。

附 則

この要領は、平成17年4月1日から施行する。

附 則

この要領は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この要領は、平成18年11月1日から施行する。

附 則

この要領は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この要領は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

- 1 この要領は、改正協定が日本国について効力を生ずる日から施行する。
- 2 この要領は、この要領の施行の日前において行われた公告その他の契約の申込みの誘引に係る契約で同日以降に締結されるものに関する事務については、適用しない。

附 則

- 1 この要領は、平成31年2月1日から施行する。
- 2 この要領は、この要領の施行の日前において行われた公告その他の契約の申込みの誘引に係る契約で同日以降に締結されるものに関する事務については、適用しない。

附 則

- 1 この要領は、包括的な経済上の連携に関する日本国とグレートブリテン及び北アイルランド連合王国との間の協定が効力を生ずる日から施行する。
- 2 この要領は、この要領の施行の日前において行われた告示その他の契約の申込みの誘引に係る契約で同日以降に締結されるものに関する事務については、適用しない。

附 則

この要領は、令和7年4月1日から施行する。